

村政懇談会（白方地区）会議録

～ 災害への備えについて ～

記録者：星田

○日 時 令和5年8月3日（木） 18時00分～19時55分

○場 所 白方コミュニティセンター（2F会議室）

○出席者 <白方地区> ※敬称略

小野寺紀夫（村松北区自治会長）、児島強（白方区自治会長）、佐藤一也（白方区防犯防災委員長）、橋本良行（岡区自治会長）、荒木慎一（岡区書記）、佐々木浩（百塚区自治会長）、滝吉謙一（豊白区自治会長）、橋本欣也（豊岡区自治会長）、佐藤弘昭（亀下区自治会長）、谷口良徳（原子力機構百塚区自治会長）

計10名

<東海村>

山田村長、萩谷副村長

村民活動支援課 伊藤課長、高橋課長補佐、砂川係長、鈴木主任、
防災原子力安全課 大道課長、平根副参事、竹内課長補佐

白方コミュニティセンター 川又センター長、星田副センター長

村松コミュニティセンター 石川センター長

石神コミュニティセンター 三瓶センター長

舟石川コミュニティセンター 川崎センター長

計14名

○主な内容

1. 村長あいさつ

【山田村長】

コロナ禍の中では従来の多くの住民を集めた村政懇談会は開催できず、何とか形を変えて工夫して開催してきた。今年も限られた中で、特にテーマを防災にした開催となった。コロナ感染症は5類に移行したが、私の周りでも結構感染者が出ている。基本的にコロナにかかった方は5日間自宅静養、濃厚接触者は自主判断となる。私も飲む機会が増え東京にも行くが、これだけ活動的に動いている私はかかっていないので、行動パターンがイコールではないと思う。どこでどのようなタイミングでコロナに感染するかはこれまできちんとした根拠もないが、改めて5類になっても最終的にコロナをなくすことは難しいと思う。一方、65歳以上のワクチン接種は6回目になるが、75歳以上は6割ぐらい接種している、65歳から74歳の方は5割ぐらいはやっている。当初よりワクチンに対する考え方も変わってきて、各自の判断になると思う。重症化抑制効果はある程度確認されているので、特に副反応が心配なければ、進めていきたい。一方で、東海まつりが大変にぎやかに開催でき、参加された方もいると思うが、各地区、各区、コミセン単位でいろんなお祭りやイベントが徐々に復活してくるのかなと思う。人はいろいろな繋がりを求めている。いろいろなご意見やまだまだ不安な方もいるとは思いますが、何とかできる形で、交流というものを企画してほしい。

自治会の問題については、加入率が低下していることはずっと言われてきて、明確な対策がなかなか講じられていないのが現状で、自治会長さんも非常に苦慮されていると思う。今回のテーマの防災は本来新しく転入された方に聞いてもらいたく、まずは自助と共助が大切で、自助から公助にいきなりはいかないということを若い人に伝えていきたい。実際に災害が起こると体感的に自治会のありがたさがわかるが、平常時には気付かないので、どれだけ若い人に自治会の必要性を訴えていけるかが役場にも問われている。今日は役員の皆さんに聞いて理解し

ていただいて、その先、住民の方にも説明していきたい。

今回は自然災害と原子力災害両方について説明する。住民の中には混同する方もいるだろうし、村では原子力災害を想定した避難訓練ばかりやってきたが、先日は県と一緒に自然災害対応の避難訓練を行った。自然災害と原子力災害で住民の初動が違うことを改めて伝える必要がある。今までハザードマップを作ったりしたが、配っただけでは理解されないので、実際に訓練するとか直接説明するとか、担当課では出前講座もしているので、利用していただいて多くの方々に参加してもらいたい。自主防災はしっかり活動していただいているので、それらの中でもそういう講座とか実際の訓練とか比較していただきたい。説明のボリュームがあり、防災が中心になるが、時間が取れば、それ以外の皆さんの困りごとや悩みごとについても話ができればと思う。私もしっかり皆さんの今のご意見等を受け止めたうえで、村で何ができるかを、しっかり考えていきたい。今日は有意義な時間にしたいのでよろしく願います。

2. 災害への備えについて資料の説明、情報提供

①自然災害への備え 【防災原子力安全課 竹内課長補佐】

②原子力災害への備え【防災原子力安全課 平根副参事】

3. 意見交換

【豊岡区自治会長 橋本欣也】

- ・久慈川洪水避難訓練、県村合同防災訓練に参加した。地区防災訓練にも参加予定。豊岡区では地震・津波が心配で、秋に集会所で避難生活を経験したいと考えているので、防災原子力安全課の協力をお願いします。また、避難訓練はいつも昼間だが、夜間や停電時の場合はどうするのか自助・共助・公助を含めて指導いただきたい。

【村松北区自治会長 小野寺 紀夫】

- ・自主防災組織が高齢化で対応が難しいということで昨年度組織改編し、情報班・消火班・誘導班の3つに簡素化した。いかに早くして公助につなげるか、初期対応が災害の被害の極小化につながることから、そこに力点をおき、一番大切な自助として、まずスマホを持っている人のライン登録をすることや家族との話し合いを持つように教宣活動をやっていきたい。

【亀下区自治会長 佐藤 弘昭】

- ・豊岡区自治会長が話した通り久慈川が近くにあるため災害で気にしているのは自然災害で、日中に避難指示が出た場合、高齢者で一人暮らしの方や足が不自由で雨天時に車に乗れない人の対応をどうするんだという話が自治会の役員から出た。その時に対象者がどこに何人いるかを調査したが、その情報の入手ができず、そのままになってしまった。亀下は自然災害の話はいつも気にしていて、要介護者や一人暮らしの人が夜は親族がいるので避難できると思うが日中の場合はどうするのか、情報がつかめなかったのもそのままになった。どうも個人情報が引っかけたようで話ができないとの情報が入った。亀下地区は避難指示が出る時は要介護者への避難指示も出ると思うが、その時行政として要介護者の対応をどうするのか考えてほしい。自治会を通して要介護者の避難をお願いするのは自分らも避難しなければならない、家族も避難しなければならないという立場になる。そこで要介護者の方も避難するというのは時間的に無理があるのではないか。早めに避難指示が出たら早急に介護車で上の

方に避難するのも一つの方法ではないかと思う。65 歳以上の一人暮らしの対応をどうするのかという話も自治会の役員会で出た。3 年前の台風 19 号の時もそうだったが、防災意識の認識が低い。コミセンに来たが避難した方が少なかった。その辺りの意識を高めるような努力を役場でお願いする。

【豊白区自治会長 滝吉 健一】

- ・気象状況の悪化による災害などはあまり考えられない地域。ある程度標高が高く山崩れとかなないので災害に対する意識は若干低い。道路が冠水する場所が結構あり、豪雨時には普通車で走ると走行できなくなる場所がいくつかある。これを何とかしようと思ってもできないが、何とかしてくださいとお願いするしかない。ここ数年線状降水帯などものすごく雨が降ることが増えてきたので、そこら辺ほかにもあると思うが、普通の道路がもう使えなくなることがあり得ることを考えて今後活動しなければいけないと思う。
- ・村から何か災害があった場合の訓練でもそうだが、防災無線や戸別受信機から情報が出された時、丁寧な説明だが長すぎる。できるなら何をしてほしいかという結論を言ってからゆっくり、こういう理由ですと伝えてほしい。

【白方区防犯防災委員会委員長 佐藤 一也】

- ・委員会は 170 名程度、防災部会は 90 名程度で構成され、防災士が 3 人いる。年次行事を決めて実行しており、白方区自治会独自の防災訓練、研修、講演会、広報誌年 2 回発行している。特に力を入れているのは防災用資機材で、4 年位前宝くじの助成金で揃えている。自家発電機は 6 台ある。夜間の緊急避難という話があったが、停電断水時に自家発電機を使って井戸水を稼働しようと思い、メンテナンスや訓練をしている。困っていることは安心サポーターという制度があるが、去年度から対象者に車いすの方が多くなってきた。今年度は認定者 5 人のうち 4 人が生活している。その安心安全の確認や避難誘導をやらなければいけない。車いすの方の場合安全確認はできるが、そのあとどうするか分からない。いろいろな対象の方により違いはあると思うが対応の仕方を教えてほしい。

【白方区自治会長 児島 強】

- ・自然災害と原子力災害は違う。大体はここでやっている対応は基本的に自然災害が中心。白方地区では、必要な備品、電源、電動のこぎり、リヤカー等対応は進んでいるし、教育もやっている。設備点検はやりすぎるくらい 2 か月にいっぺんくらいメンテナンスを含めた点検をきちんとしている。教育は指導者の教育はできているが、広く皆さんにいかにわかりやすく的確に、有効的に教育ができるかというところがこれからの課題になってくるし、その辺について村の支援課と協力しながら対応を進めていく必要がある。
- ・一方で原子力については、皆さん思い出すと、パニックになるのではないかと思う。助けるなんてできない。いかに自分の家族を含めて逃げるかというのが頭に残るということだ。そういった意味では今日の話に出たが、UPZ と PAZ の考え方で、その範囲において発電所と研究所で、対応というのは大きく違う。屋内避難だということ。それから、状況によって避難していくというのは、やはりいかに浸透させるか、そのことによって、冷静な判断で冷静な行動、冷静な避難ができるかというところが、ポイントになってくると思う。そういった視点で、いかに今後みんなに、教育をしていくのか。自治会にどういうふうに行政は指導していけるかというところの連携が重要になってくると思う。そういうことが大切かなと、とりわけ原子力については、やはり絶対に放射能漏れを起こさないということ。

何があっても、よほどのことがない限り、原子力安全規制で対応しているから、やはりそれに対してはきちんとクリアしていく。いろいろな人があれは大丈夫かと言っているが、何とんでも原子力規制安全委員会が専門家であり、それに対して、一般の我々がどうのこうの言う筋合い、知識、実力もないので、いかにそこをクリアして安全な対応をしていただくか。あとは要望としては、原子力発祥の地だということからすれば、発電も必要かもしれないが、いかに今後原子力の研究開発技術力を日本として高めていくかという、そういった研究方法に力を入れていただければ、村民の皆さんも、喜ぶのではないかなと思うのでよろしく願います。

【百塚区自治会長 佐々木 浩】

- ・自然災害と原子力災害と二つに分けてある。まず自然災害について百塚で怖いのは台風。風で家が吹き飛ばされないかということ。洪水の方は、あんまり心配してない。海拔 24～5mあり、また東部排水路があるから。排水路は5年ぐらい前の自治会の防災訓練時、役場から、1時間当たり 50 mmの雨量には耐え切れると言われた。それを超えたらどうなるかという、道路沿いに日立の久慈川の方に流れていこうと思うので、少なくとも家が流されるようなことは、百塚に関して言えないだろう。ただし停電は起こりうるので、まだ準備中だが、カセットボンベで動く発電機というのを毎年の予算で何台か揃えようと思う。これで携帯電話の充電ができ、パソコンの充電ができるとなると大分情報収集の能力が違ってくると思う。そこを年次計画で重点的に揃えようと思う。今は我々の地区の防災委員には、防災士の免許を持っている人もいるので、彼を中心に、再度体制を構築しようと思っている。着々とやっていく必要がある。
- ・もう一つ原子力だが、今日の資料でも原発から国などに情報がいき、こちらにおりてくる。この時間割が分からない。発電所は原爆と違って、トリガーがかかった時にいきなり爆発するというわけではないはずで、そのところは、原発の見解を聞かないとならないが、異常だと言ってから何か手を打って、本当にどうしようもなくなるまでには、かなりの時間がかかると思う。福島でも、いきなり爆発したのではなくて2日か3日かかっている。その時間割をちゃんとしてくれれば、みんなが一斉に、同時に車で出て、どこかに逃げることはないと思う。もっと確実に着実に逃げる方法があるだろう。だから時間割がないこういう計画は無意味だと思う。原発でも、正確なところはできないというだろうが、仮説でもいいから、作ってもらいたい。原爆と原発の災害のパターンは違う。原爆は一瞬にして核分裂が起こるから、待たないで、原発はもっとゆっくりと起こるはずなので、やはり時間割をつくれるような何らかのデータが欲しいと思う。
- ・あと、我々にとって大事なのは防犯。自然災害がくるより泥棒が入る方がはるかに確率が高いというのが私の見解。

【岡区自治会長 橋本良行】

- ・防災訓練を毎年実施している。毎年12月、1週間目と2週間目という形で、繰り返している。コロナのためこの3年間は、班長を中心にした防災訓練で、それに消防団まで入った防災訓練を実施している。ただそれ以前は住民の方、組員の方に数多く参加いただいた経緯がある。岡区の世帯構成・年齢構成は、かなり若く、平均でいうと50代半ばの世帯になる。そして今現在204世帯中、自治会加入が145世帯、71%になる。ただこれも、ここ3年間、私が役員始めて今年5年目になるが、ここ3年間に、75%から71%まで落ちている。なぜ落ちてきたかという原因は、岡区に入ってくる若い人たちは比較的自治会に加入してくれるが、

残念ながら、高齢者の世帯は、班長が来年に回ってくるから今年抜けるというケースが非常に多い。これを防災訓練という形で考えていくと、この方達にどのように情報を伝達するんだということになる。班にも入っていない自治会にも入っていない、まして、岡区の場合、住宅同士が密接しているわけではない。離れている。自治会の人間でもない班の人間でもない人にどうやって情報を伝えるかというのが非常に大きな問題。高齢者になると、班長になりたくない、ゴミの当番に入りたくないために抜けてしまう。本当にこの人たちを何とかつなぎとめたいと思うのが本音。辞めるだろうと思いつつ3回も4回も行くが、それでも抜ける。後から復活できないよって言っても抜ける。自治会自体がだんだんと厳しくなっている状況である。

- ・自助・共助・公助という話があった。自助について、それぞれの個人の世界がどうなっているかというのはまだ調査していない。これについては全く分からない。共助については、この岡区の中でも組織が存在するが、班長さんたちが非常に若い。特に今年は、班長さんたちが非常に若い30代、40代。一番上でも、60代になったばかりなので、昼間は家に全くいない。この人たちにいろいろな情報を伝えなければならないが、伝えることができないという状況になっている。公助について、我々はその中で、昼間、支援の必要な人たちについては、本当に高齢者世帯なので、昔から岡区に住んでいる人が非常に多い。だから、お隣同士というか、ここは組織があろうとなかろうと、何とでも支援することができる。ちょっと話したことがあるのだが、コロナ禍の対応が変化してきたので、今年は多くの方たちに参加していただいて12月に防災訓練を開催したいと思っている。それで村から防災の備品の支援をいただいて、参加した方たちに一つ一つ出してもらって、一つ一つ動かしてもらって、そういう経験を毎年地道に繰り返している。ただ参加しない人、自治会に加入していない人にはこういった経験を伝えることができないのが非常に残念に思っている。

【岡区書記 荒木慎一】

- ・避難のタイミングで、毎時500マイクロシーベルトは数時間内、20マイクロシーベルトは1日以内について、1週間程度内というように感じて、わざわざ区切る必要があるのかと感じた。数時間内で避難できるのであれば、20マイクロシーベルト地域も一緒に避難できるのではないかと思う。

【原子力機構百塚自治会長 谷口良徳】

- ・自助が大事ということで、私自身は自分自身が事前にどう対応すべきかということを考えるのが重要なのかなと思った。2点話しがある。まず1点目、実際に被災した時の私自身の感想。どこに助けを求めると良いのか、どこに逃げるのが良いのか、どこで受け入れてもらえるか、そういったような情報がちょっとよく分からない。もし可能であれば、どこに拠点を設定するのかはある程度事前に計画されると思うので、その予定などは、被災してから連絡するというよりは、ある程度事前にこういうところにこういう拠点を置くと考えているとか、そういう情報があるのであれば事前に共有いただけると、いざ被災したときにどう対応すべきか考えやすいと思った。
- ・2点目、大震災が起こった時、私は関西で学生だったので経験はないけれど、関東全域そうかもしれないが、まさに東海村は大震災の経験や知見があると思うので、そういったところはやはり、村のホームページなど何でもいいので、過去こういう災害が起きたときに、東海村はどういう対応をして、住民は例えばどういうところに逃げたかというような情報があれば参考になる。被災した時に自分がどう対応すべきか参考になると思うので、そう

いった情報も共有いただければなと思った。

【防災原子力安全課 大道課長】

- ・夜に災害が起こった時どうするかについて、資料9ページで榊橋の水位が3.7mで避難方法確認等が始まり、6.3mで高齢者等が避難し、6.7mで皆さんに避難してくださいというアナウンスする予定。令和元年の台風19号の時水位3.7mから6.7mまで約4時間。村としては3.7mを超えた時点で水位の上昇を見込みながら、避難指示等を出す準備、避難所開設の判断をしていく。夜中だったらどうするかについては、令和元年の時は6.3mになった時は夜中の2時で、白方コミセン、石神コミセン、小学校を開設したのが現状で、できるだけ早い段階で避難案内をしなければということ、3.7mが夜の10時、6.3mが夜中の2時なので、10時位に避難準備のアナウンスをしておけば、次のアナウンスを聞くということに注意を払っていただけるかなと思う。ただ、あまり雨が強いときに皆さんに避難してくださいと言っても、二次災害のことも考えると状況判断が必要かと思うが、できるだけ早いタイミングで安全に避難できるような体制をとりたい。
- ・自然災害と原子力災害の要介護の方については、一般の自然災害では、安心サポーターがついていて、個別に避難計画を作成することにしており、この間の久慈川の災害を想定したハザード内には3名の方だと思うが要配慮の個人、避難行動の要請者がいると福祉部署から聞いている。村全体としては90名ぐらいの方が、その個別避難計画を策定する必要があるとご本人から申し出があったと聞いている。年度内に全員作成するように福祉部署で今動いている。原子力災害では、まずはご自身で避難して、その個別避難行動計画の避難が必要な90名ぐらいの方は、村で避難支援をしていくことになる。自然災害の時には、安心サポーター、安心サポーターがいない場合は、村に連絡いただくことになると思う。基本的には自然災害は安心サポーター、もしくは共助でお願いしたい。原子力災害については村で対応したい。
- ・資料15ページの防災放送の内容等が、長い、結論を先に言ってから説明した方がいいんじゃないかという件については、今後考慮しなければいけないと思う。資料では、例文を用意して、今のところ広報分類に従って繰り返し広報するというようにしている。これは原子力に関わらず災害が起きたときに広報班というのを組織するが、そちらの方である程度文例を考えている。例えば原子力では「屋内に避難して留まってください」や、「避難してください」という、文例が作られるので、先ほどのご意見を踏まえながら、分かりやすく説明させていただければと思っている。また情報入手の手段ということで、石神コミセンでも話があったが、「雨風が強いときに戸別受信機が聞こえない」とか「屋外放送が聞きにくいところがある」と、仰っていた。対応としては、携帯電話等お持ちの方は、村方式のTwitterやFacebook、LINE、Yahoo防災情報をなどから、情報入手できるような形をとっていただけるよう、こちらの方でも広報していきたいと考えている。全員はスマホを持っていないだろうということもあるかと思うが、できるだけ多くの方に情報を入手する手段をとっていただけるようなご案内をさせていただきたいと考えている。
- ・資料12～13ページについて、原子力災害になるとパニックになるのではないかと、特にUPZの人たちが同じ情報入手することになると思うので、われ先に逃げようということになるのではないかとのご意見だったかと思う。石神コミセンでもやはり同じようなお話があり、渋滞が発生するのではないかと話だったが、先ほど資料で説明した通り、東海村については、放射性物質の放出前に皆さん避難することになっているので、基本は東海村が先に動くことになっており、その周りの方々が家にとどまっているという状況

が、教科書通りの避難の仕方になる。テレビやラジオなどで、万が一、東海第二発電所で何かあったとなった場合、福島のことを頭あるとどうしても、われ先に行かなければいけないと思い、動き出してしまうということについては、なかなかその整理をしきれない部分がある。ただ、UPZは東海以外の周りの方々については、やはり茨城県や国の方でしっかり説明していただいて、屋内で退避することが有効なんだということを説明していただかないとならない。東海村だけがわれ先に行くのではなく、順番で避難できるような説明をしていただくことがまず重要なと思う。

- ・安心サポートさんがついていて車椅子の方が、安全の確認はできるが避難誘導については難しいというご意見については、リヤカーなども整備されていると聞いており、そのような整備の計画があるということも伺っている。その方をリヤカーに乗せて実際に避難の手伝いをするということについても、多分マンパワーのところでご心配とかなかなかできないということであれば、その辺は村の方に連絡いただいて、こちらの方でサポートさせていただくということになるかと考えている。
- ・被災した場合にどこに助けを求めればいいのか、自分がどういうふうに対応すればいいのかということについては、自然災害でもお話したが、東海村自然災害ハザードマップを令和4年2月に全戸配布させていただいた。もしかすると新しく来られた方の中にはまだご覧になったことがない方もいるかと思うが、この災害ハザードマップの中に、避難の場所が書いてあるので、まずはこちらをできるだけ多くの方の手に取っていただき、筆筒の肥やしにならないように周知していくことが重要かと思う。またこの中に、我が家のタイムラインを作りましょうということで、先ほど説明した通り、各家庭においてどのように連絡を取るかや、集合場所はどこにするかという説明も入っている。もし各自主防災組織の中の活動で配れるような機会があるなど、必要部数があれば、村の方に言っていただければまだ在庫があるので、こちらの方で配布するなり、事前に訪問するなりできるかと思うので、お伝えしていただければと思っている。
- ・毎時500マイクロシーベルトや20マイクロシーベルトについて。数時間以内に避難ということであれば、もうどちらも一緒にいいのではないかというご意見もあったと思うが、こちらは国の方でこういう考え方が決まっております、村だけということにはなかなかいかないのかなと思う。20マイクロシーベルトと500マイクロシーベルトとで行動の違いがあり、この数字に従って、村では情報発信していくということになると思う。

【山田村長】

- ・橋本豊岡区自治会長が言われたいろいろな避難訓練をやるということについて、これはどこかで多分やる必要があると思う。今回自然災害の訓練も久しぶりにやってみたが、どうしても原子力災害のところの避難計画まで今はまだでき上がっていないので、これができて、訓練をやるかすると、自然災害も多分いろいろなケースを想定するので、ある程度計画づくりが落ち着いたら、実際訓練をやって実行されているところでは、多分どこかでやる必要があると思っている。いつとは言わないが考えたい。
- ・小野寺自治会長からの、自助の勧めとしてLINE登録を進めていくという点について、これは村が高齢者を対象としたスマホ教室を進めている中で、防災でなくても一番大事だということは村の方でも言っているので、自治会の方でまず進めてほしい。
- ・佐藤自治会長からあったが、高齢者対応は本当に大変で、おっしゃる通り情報のところなかなか単純にはお渡しできないこともある。今、民生委員さんと福祉部の担当のところ、さきほど大道が言ったように、一人ひとりの個別避難計画、これは自然災害や原子力

災害などいろいろな災害も含め昼夜さまざまなタイミングを想定して、誰がどのようにサポートして避難させるかについて、白方区の佐藤委員長の方でもあったが、車椅子で家族が近くにいるのか遠くにいるのかなど、個別にヒアリングをして、全部聞き出した上で、誰がどういうルートで避難するかということを進めている。この高齢者等の避難計画作りの対象は、100人ぐらいだと思うが、毎年多分対象は増えてくるので、ずっと延々とやり続けることになる。これは本当に人手で作るしかないで、今の職員体制を増強して進めている。また自治会長さんには、最終的にそのサポーター役になる人を自治会の中で誰か探してもらうことになると思う。そこは民生委員さんも一緒になってやっていくので、引き続きご協力いただきたい。令和元年の台風の時には、私も最後、広報車を回せと言いつたが、そこまでしないと危機感がないというのは、皆さん安心して、川を見に行ってしまうほどなので、そこはやはりもう一度、ある程度危機意識は皆さんに伝えなくてはいけないと思う。

- ・滝吉自治会長からあったように、私もこの情報の伝達の仕方が一番大事だと思う。原子力災害で私が一番怖いのは、原電の発電所なのか原研の研究炉なのか、原電と原研というのが多分放送したときに多分うまく伝わらないと思う。JRR3というのなかなか伝わらないので、もう研究炉や発電所と言った方が分かりやすいと思う。そういう意味ではやはり正しくやろうとすると長くなるので、どれだけ早く行動をどうしてもらいたいかということ伝えるべきだと思う。東日本大震災時に大洗町が津波被害を受けた時、最後町長が「早く高台に逃げろ」とだけ言った。町長は「これはやはり住民には効いた」というので、やはりそこは正しいというよりは、より行動を促すために、どういう方がいいのかは引き続き考えたい。
- ・児島自治会長から言われたが、原子力災害については、PAZとUPZの違いは本当に分かってもらわないとならない。荒木さんからもあったが、UPZに94万人おり、確かに20マイクロシーベルトまで全部入れた方がいいという、基本的にはスクリーニングをやらなければならない、環境中に放射性物質が出た後に避難するので、汚染されているかどうかというのを全部その30km境界のところ、1台1台、1人ひとりスクリーニングしなければいけない。その手間を考えるとそれは区切ってやらないと大パニックになるので、そこで段階的ということでは分かる。佐々木自治会長も言っているが、時間的には相当余裕があるはずである。資料では、警戒事態、施設敷地緊急事態、全面緊急事態と三つ並べたが、事態のフェーズが変わるまでに相当な時間がかかり、また、それだけの時間を確保できるだけの多重の対策をしているので、実はそう簡単にフェーズは変わらない。福島はそのような対策がおろそかだったので、最後には水素爆発した。あの映像を皆さん見ているので、何か起きたらすぐそうになってしまうと思う。そうならないように、新しい新規制基準で、私も現場を見たが、調整手法をいっぱい作っており、最後は手動で全部水を入れるなど、ありとあらゆることをやっている、実際事態が変わるまでには相当な日数がかかる。もしかすると多分そこまでいかない、その前に止められるというぐらいのことにはなっているかもしれないが、私は今住民に説明するときには、時間的なタイムスケジュールや余裕はあるということはしっかり言わなければならないと思っている。私がいかにいうことではないので、これは国と県にしっかり説明してもらいたいと思っている。
- ・橋本岡区自治会長が言った通り、高齢者がどんどん自治会を抜けてしまうと、自治会の加入率だから知らないとも言えないし、行政からすると、自治会に入ってようが入ってしまいが、住民なので守らなければならないが全部そこを見る訳にはいけないので、最後はやはり自治会にお世話になるしかないと思っている。ただ、若い人が入らないことより高齢者

が逆に出してしまうのは、何かあった時に誰にも助けてもらえませんよということをやはり伝えなければならないし、班長の役割の負担のところはまた別な方法で軽減することを考えるにしても、抜けるということはやめてくださいと、これは村からも言わなければならないと思うので、そこは引き続き粘り強く伝えていきたいと思っている。

- ・谷口自治会長からあったが、ハザードマップを見てもらえればいいのだが、基本的に自然災害で全損というのは地震以外ではないと思うが、局所的なものであって、それぞれの場所に応じて、避難先も変わる。ただ、基本的に役場が全部、きちんとした情報を伝達するので、役場に何でも聞いて良い。ただ原子力災害時には、最後の住民が逃げるまで役場はここにいる、一方で、避難先にも避難先ごとに災対本部を継続して置かなければならず、それは取手市藤代庁舎につくと一応決まっているが、どのタイミングで向こうに移るかというのが、なかなか事前にはお知らせしづらいところがある。ただ、村は原子力災害については最後の1人まで、それは粘り強く避難してもらうことをやりながら、一方ではもう避難した人がいるので多分役場も二つに分かれるようにはなっている。避難先で住民にいろいろな支援をするために役場機能を移転することになるが、原子力災害はそうならないことを祈っている。でも、最後は役場総力で、そこはやっていく。原子力災害については、事前になかなか知らせるのは難しいが、自然災害については、基本的にはすぐに何でも役場に問い合わせてもらって、その時点で最新の情報をお届けするというを考えているので、役場を信用していただければと思っている。
- ・今日は皆さんの話を聞いていて、現場で訓練をやりながら、防災資機材の運転もしながらその維持管理もしながらということで、いつ起こるか分からないので多分それをやってもらうしかないのだが、実は大変だと思う。お金だけの問題ではなく、そこに関わる役員がどんどん変わっていくので、常に教育を続けていくという意味では、本当に自治会の活動に頭が下がる思いだが、やはりこれはやってもらわないといざというときに機能しなくなるので、大変だと思うが、引き続きやっていただければと思う。そこに本当に皆さんが集まってもらえるように、ちょっとしたイベント的な要素を加えてもらってもいいし、いろいろな備蓄品などを、どんどん更新の時に合わせて配ってもらうことで、少し住民の方も参加するメリットのようなものがあると感ずることも必要だと思う。正しいこと、良いことを教えるだけではなかなか人がついてこないの、お得なことや、楽しいことのようなものをつけないと、なかなか皆さん参加しにくい時代になっている。そこを工夫しながらやっていただければ良いと思うし、何か困ったことがあったら防災原子力安全課に問い合わせし、相談してもらえれば対応する。
- ・自治会全体の問題についても、村民活動支援課の方で真摯に相談に乗らせていただくので、これからも役場を頼りにしていただいて、いろいろな注文をぶつけてもらえればと思う。
- ・今でもふれあいトークなどいろいろなことやって直接お話ししているが、私自身もこういう説明会のようなことをできるだけやりながら、広く住民の方々に理解してもらうように努めていくので、今後ともご協力をお願いします。

【百塚区自治会長 佐々木 浩】

- ・平成28年度の訓練のときにももらった東海村広域避難計画ガイドブックは結構良くできています。これはリバイスされて新しいものがあるのか。このご時世なので、もっと構成を考えて、スマホは無理だろうがパソコンレベルでのぞけるようにしてくれると助かる。やはりDXの時代なので、機械はもっと有効に使わないといけないと思う。
- ⇒今日の資料12ページをご覧くださいと思いますが、先ほどお手元にとっていただいた

この広域避難計画ガイドブックは当時作った現状のままになっている状態である。というのも、表の右から2番目の欄外のところに米印で書いてある通り、避難先が現在調整中になっている。これは今年の3月だと思うが、茨城県の方で避難所における1人当たりの面積は資機材込みで3㎡にしようということに変わったことによるものである。当時は、2㎡で計算しており、取手市守谷市、つくばみらい市の2市で調整しようと思っていたが、それが3㎡となったこともあり、今避難先を調整しているところ。修正版については、避難先の調整が済み次第、新しい形で皆さんに周知させていただきたいと思っている。ご意見いただいた通り、当然パソコンや携帯でものぞくことができ、もっと分かりやすいような形で周知できればと思っている。もうしばらくお待ちいただければと思う。【防災原子力安全課】

【村松北区自治会長 小野寺紀夫】

・最近、かつて経験をしたことのない気象がある。一番の心配は突風。今年もあったが、自然災害が目につくようになってきたので、これも少し検討の中に入れておく必要があるのではないかという気がしている。ある日突然来る。信用がないのかむしろ震災の保険に入るしかないかと最近はある。やはりもう少し何か考えていた方がいいなという気がした。

⇒突風についてはこちらでも予想がつかないというか、突風やつむじ風というレベルではなくなっているような状況は、おっしゃる通りであり、物置やその辺にあまり物を置かないなど、そういったところは気をつけていただきたいと思っている。台風については、進路が見えてくるので、そろそろ来るのかなというのは、事前に分かるかと思うが、本当に突風や線状降水帯のような突然雨が降ってくるような状況については、なかなか予測や事前の備えができるまでの時間がすごく短いパターンが考えられるかと思う。先ほど口頭でご案内させていただいた令和元年の台風19号の時も、上流の太子町や常陸大宮市のところは、観測史上、1、2を争うくらいの雨量が降ったそうなので、それをまずは想定して、先ほどの3.7mや6.3mという目安は、その状況であっても4時間ぐらいの時間があるということは、こちらで把握はしているが、突風や急な豪雨については、情報提供方法である。先ほど資料にあった通り、Yahoo防災などを登録していただくと、自動的に入ってくるのでそちらをご覧くださいか、情報収集に努めていただければと思う。

【防災原子力安全課】

⇒滝吉自治会長が言われていたが、内水氾濫というか、冠水するところはもう村も全部わかかっていて、今は土のうを配ることしかできない。根本的には排水路の改修が必要で、ただ、口で言うほど簡単ではなく、排水路だから管を太くすると言っても、埋まっているものをどうするのかという問題がある。結局白方は、白方小跡地を調整池にしたのだが、その1つだけでは全然追いつかない。一応東部排水路の整備も中央排水路も全部調査が終わって、対策工事もこんなことが必要だということはコンサルからも言われているが、少し資金がかかりすぎるので、なかなか踏み出せないことがある。ちょっと排水対策は同時に、下水道課の方でやっているが、特にひどいところについては、応急対策として何ができるのか、本当に雨水枡を少し大きくするだけでも大分違うところがあるので、対処療法になってしまうが、そういうことも含めて少し考えたい。マツモト電気のところもなかなか解消できないが、認識はしている。あと、どういう工事をどのタイプでやるかっていうのは、今、検討している。【山田村長】

4. 自由意見交換

【岡区自治会長 橋本良行】

・岡区の通過交通が朝晩激しくなって、通り抜けの車が多くなっている。そこが子どもたちの通学路に指定されている。その解消のために村道改良を要望しようと思い、道路整備課に行った。当然のことながら、「改良をするためには、地権者の同意が必要」という回答があった。「地権者の同意は私たちでもらってくるが、地権者は分からない。何名かも分からない。」と言ったら「地域で調べてください。」と言われ、どこで調べるのか聞いたところ「法務局です。お金は地域で出してください。」と言われた。余りにも杓子定規だと思った。私たちがあの地域は協力はするし同意も取りつけることも努力するので、だれが持っているのか、最低限その情報だけ欲しいと思った。今、道路改良についてはそのようなスタンスで地域に振っているのかなと疑問を持った。

⇒私も似たような話は他にも聞いていて、やはりその改良をしてもらうのに要望として何人ぐらいの住民の方々の同意というか賛同を集めれば動くのかと最近言われた。多分担当課の方で全部の要望を受けるわけではなく、どこかである程度まとまった話を受けるというふうに内部である程度決めていたのだが、私はその細かいところの運用までは把握していないので、いろいろなレベルの話があると思うが、実際に現場を見て、本当に通学路の安全を確保するためにどんな道路の改良が必要で、地域の方々も皆さんも同意するのであれば、前向きに取り組めるように、行政も一緒になって考えるべきだと思う。

何となく今行政がいろいろな要望を受けると、まずどこかで線を引きたがる場所があり、何か自分たちである程度基準を作っているところがあると思う。まずは話の中身をよく聞いて、その要望のレベルが個人のがままなのか、地域で皆さんが本当にしようと思っているのかということを確認した上で、対応すべきだと思う。杓子定規と言われたが、そういうところもあるかもしれないので、これは私自身が担当課にどういう対応をしているのか確認し、地域の皆さんの要望にこたえられるところは考えて、いろいろ個人情報の出し方については役場として難しいところがあるが、あまり杓子定規にならないようにそこは対応を考えていく。【山田村長】

【村松北区自治会長 小野寺紀夫】

・役場に行くとき職員は胸章を吊り下げている。偉い人は背広に止めているが、下げているから誰が誰だか分からない。あれは胸章なのか何なのか分からない。そしてマスクをしている。少なくとも私はこういう人間であるということ、住民に知らせるためのグッズだと思う。20年ぐらい前からいろいろ大きくなってしまい、下に下げているから、これはやはりもう少し上げるとか、改善する必要があると思う。

⇒基本的には胸章で、逆に今この名札で、個人情報がいろいろ出されてしまうことがあり、今胸章には基本的に名字だけしか掲示していない。少し過激な人はこの名前を見て名前からSNSで検索して、他に拡散したりするケースもある。ただ一方では、住民に対して自分が誰かということのちゃんと知らせる必要がある。村もそういうのもPRで使っている。確かに窓口立つと机の下に隠れてしまい見えないところもある。実際、住民目線で見たときにどれだけ有効になっているのかというのは、一度総務人事課を含めて検証したい。【山田村長】

【萩谷副村長】

・今年の村政懇談会は「災害への備え」ということで、防災について皆さんからいろいろなご意見をいただいた。

- 皆さんが課題だと思っていることについては、まさしく村でも本当にそこは課題だと思っている。特に災害時の要支援者の避難誘導については、非常に大きな課題だと思っており、今年度福祉部門の方で要支援者一人ひとりについて個別計画を作っているのだが、やはり実際にそのマンパワーの確保が大きな課題になっている。それは役場もしかり、地域もしかりだと思う。この辺をどのように解消していくのかというのは、まだ答えが見えていないがしっかりやっていきたいと思っている。
- 災害時の情報伝達も大きな課題だと思っている。これはもう前々から課題になっていたわけだが、村の方では情報伝達手段の多様化ということで、LINE などそういったものも活用していただき肝心要の情報内容をいかに的確に伝えるかということも非常に大きな課題である。自治会長からは、内容が非常に長すぎて分からないという話もあった。確かに本部会議の中でどういう情報を出すかという時には、できるだけ短くということをやっているが、なかなかうまく流せていないと思う。それと、私の記憶に残っていることで、昔 JCO の臨界事故が起こった時に放送を流して、JCO と言ったところ、「JCO ってどこにあるんだ」となったことがあった。結局原子力災害の時に、例えば原研の JRR 3 なんて言っても、一般の方はなかなか分からない。だからいかに情報を的確に出すかということは非常に難しいなと日頃から思っており、皆さんも同じように感じてるんだなと思った。
- 原子力災害時の避難、いかに冷静に避難してもらおうかということも大きな課題になっており、原子力災害時におけるその避難の方法を、いかに多くの住民の方に理解していただくかということが非常に大切なのかなと思う。広域避難計画がなかなか避難先の調整がまだできていないので、最終的な成案がまだでき上がっていないが、でき上がった段階においてどういうふうに地域住民の方にその内容を説明していくか、理解していただくか、こういったことも大切に考えているところ。いずれにしても災害の時、担当からも出たかと思うが、まずは自助をどういうふうに認識してもらおうか、その次の段階として共助、こういった意識を高める必要がやはりあるのかと、改めて今回皆さんの話を聞いて思ったところ。今回は役員の方だけの集まりの中でやったんで、今後これを地域の住民の方にどう広めていくのか、自治会の方にも協力をもらってやっていかなければならないと思うので、引き続きのご協力の方もよろしく願います。